

つなプロ避難所アセスメント 第5週(4月25日～5月1日)に関する 分析速報

2011年5月3日



被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト(つなプロ)

つなプロ避難所アセスメントについて

■被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト(つなプロ)とは

仙台・東京・関西を中心とした全国各地のNPOネットワークとして3月14日に発足した「被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト」(つなプロ)は、これまでのべ400人のボランティアを宮城県に派遣し、600か所の避難所を、3月28日から3週に渡って巡回訪問。避難所の実態把握のためのアセスメントを実施している。アセスメントによって判明したニーズや課題を、地域内での支援の取り組みや、介護、医療、障害者・外国人・難病患者支援など専門性を持つNPOとマッチングすることで解決を進めている。600か所の避難所データは、富士通より無償提供されたクラウドシステムによって、提携NPO間で共有されている。

■データ注意点

・本分析は、第5週(4/25～5/1)分における集計。但し一部分はデータ数確保のため、第1～4週分も含めた分析となっている。各項目ごとに、アセスメントできた避難所に限定して分析は行われている

■幹事団体

(特)せんだい・みやぎNPOセンター、(般社)ダイバーシティ研究所(DECO)、
IHOE[人と組織と地球のための国際研究所]、スペシャルサポートネット(SSN)関西、(特)ETIC.、日本財団

■実施スケジュール

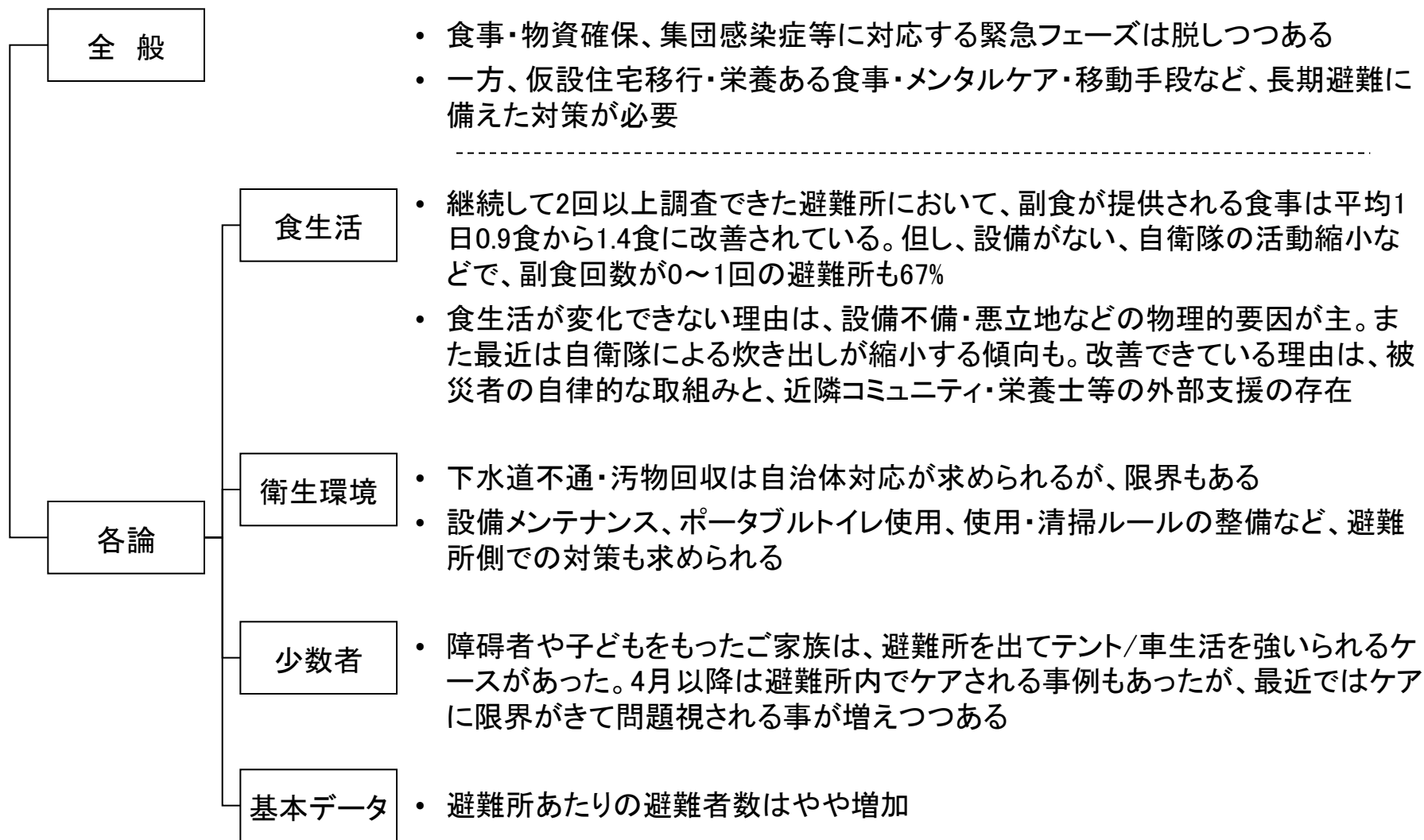
- ・3月28日(月)～4月17日(日):毎週80名程度のボランティアによる、避難所の巡回訪問とアセスメント、
現地および東京などの支援団体・機関と随時マッチング(3週間)
- ・4月18日(月)～5月1日(日):毎週60名程度のボランティアによる巡回訪問・マッチングの継続と、
10程度の避難所での継続的な支援(自宅避難者の訪問を含む)を準備

※福島・岩手での同様の取り組みも、連携先候補との協議中。

■詳細/ウェブサイト <http://blog.canpan.info/tsunapro/>

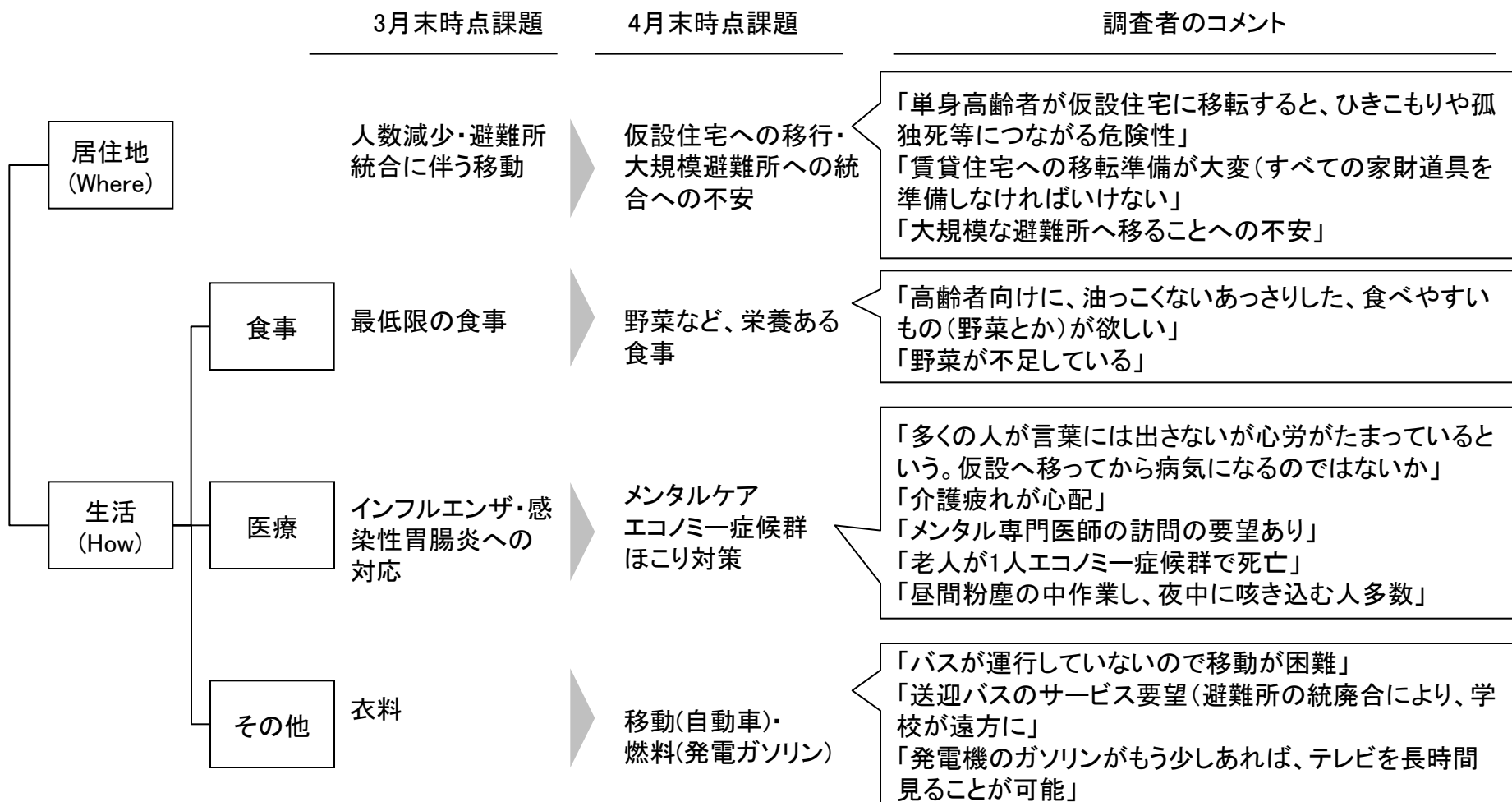
■分析実施 RCF災害支援チーム

要約 ～食事・衛生等での課題を残したまま仮設住宅段階へ



課題総論 ～緊急段階を脱するも、避難生活長期化に未対応

- ・ 食事・物資確保、集団感染症等に対応する緊急フェーズは脱しつつある
- ・ 一方、仮設住宅移行・栄養ある食事・メンタルケア・移動手段など、長期避難に備えた対策が必要

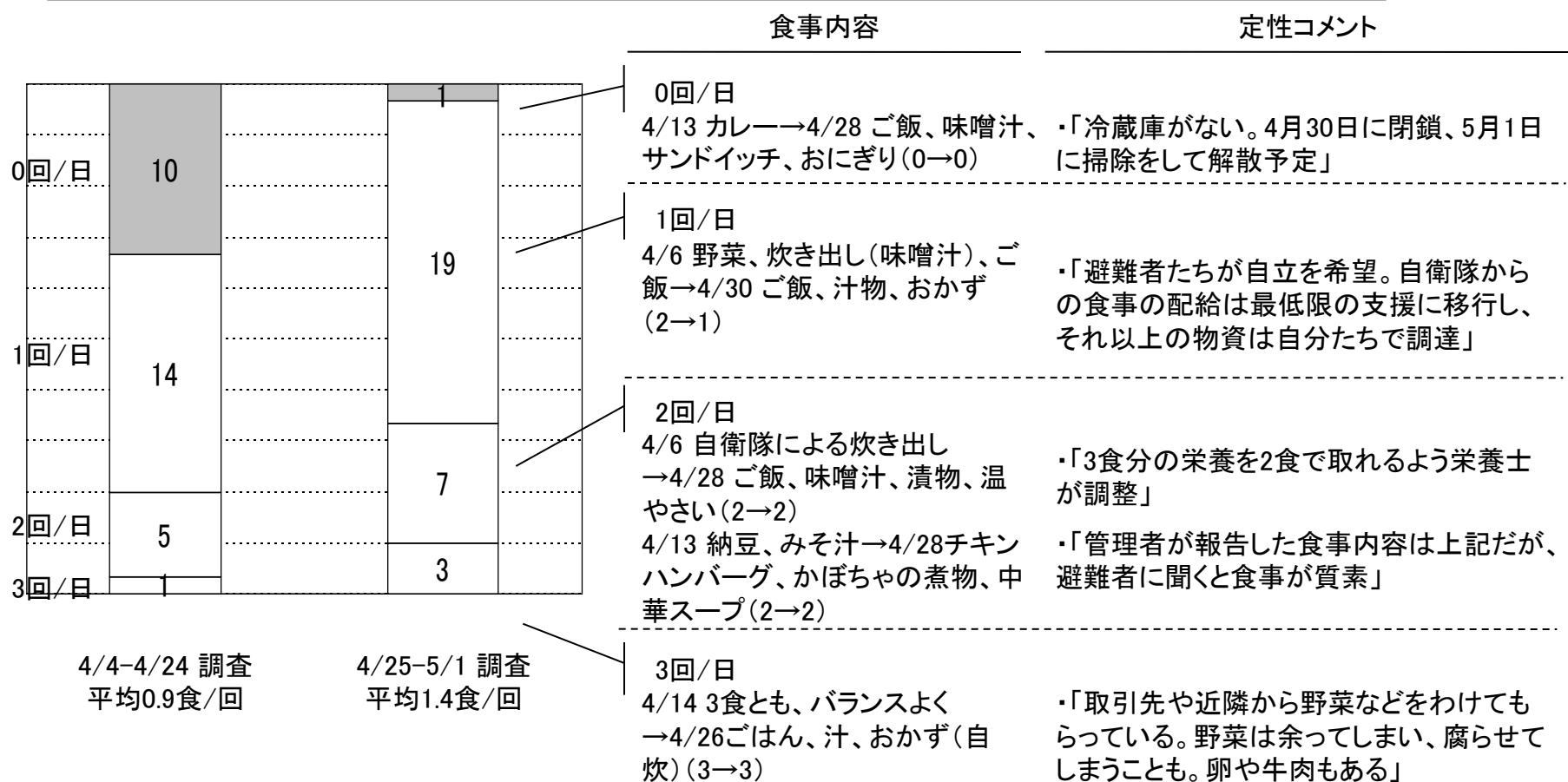


⇒避難所マネジメント問題(人不足・管理面への不満、住民間の争いなど)は継続発生

食生活 ～副食回数改善されるも課題残る

- 継続して2回以上調査できた避難所において、副食が提供される食事は平均1日0.9食から1.4食に改善されている。但し、設備がない、自衛隊の活動縮小などで、副食回数が0～1回の避難所も67%

副食の提供回数の推移



資料: つなプロアセスメント調査(4月4日～5月1日)

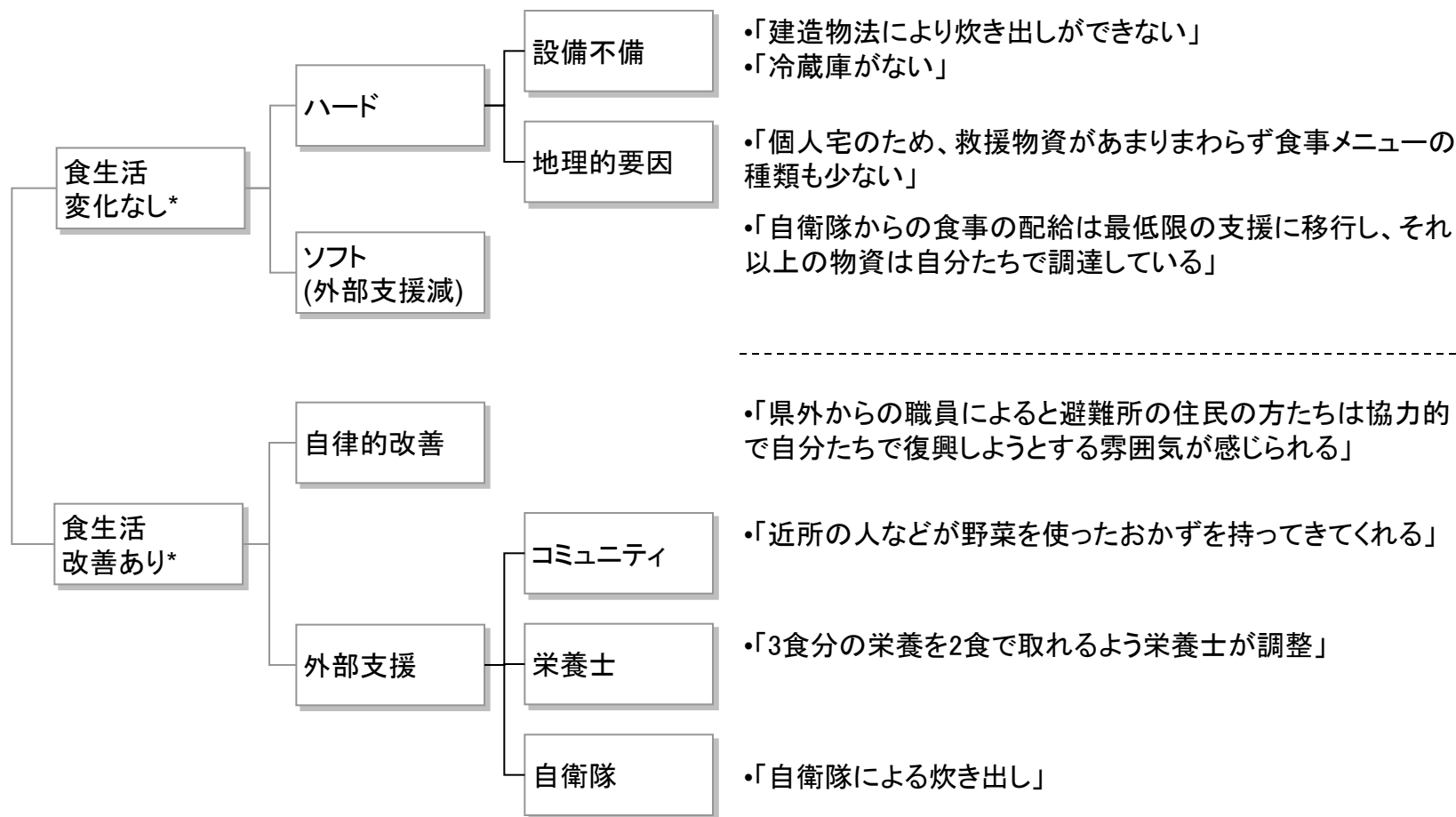
注) 4/25-5/1調査先のうち、4/24以前の調査で訪問しており、食事の内容が継続して比較可能な30件を対象に集計。

調査日前1日の食事内容から集計。おかずのうち、野菜、肉、魚などを調理したものを副食として集計。スープ、味噌汁、インスタント食品、レトルト食品のみでは副食としてカウントせず

食生活 ～設備不備・地理的要因により食生活改善困難

- 食生活が変化できない理由は、設備不備・悪立地などの物理的要因が主。また最近では自衛隊による炊き出しが縮小する傾向も。改善できている理由は、被災者の自律的な取組みと、近隣コミュニティ・栄養士等の外部支援の存在

改善または不変の要因



* つなプロアセスメント期間において、食生活(副食提供回数)に改善傾向がある避難所と、変化が見られない避難所に区分し、それぞれの背景を検討した資料: つなプロアセスメント調査(4月4日～5月1日)

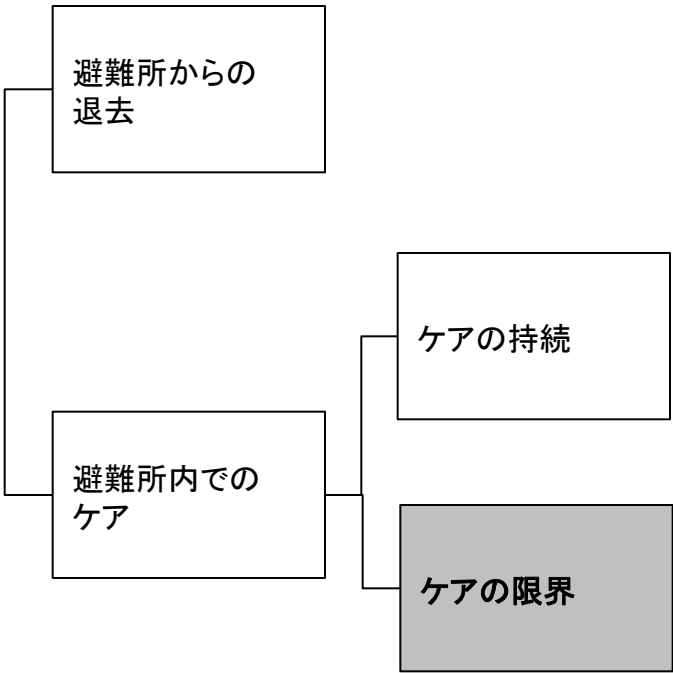
トイレ ～避難所側でのトイレ修繕や利用ルール有無に差

- 下水道不通・汚物回収は自治体対応が求められるが、限界もある
- 設備メンテナンス、ポータブルトイレ使用、使用・清掃ルールの整備など、避難所側での対策も求められる

		状 況	対 策
自治体課題	下水道	「水が流れないため、風呂に水を溜めて流すのに使用」(4/28) 「水道が使えないのでプールの水を汲んで使っている」(4/27)	・下水道施設復旧
	汚物回収	「外の仮設トイレは汚かった。汚物が溜まって臭う」(4/22) 「屋外の仮設トイレの汚物回収が滞っており、容量が限界寸前」(4/20)	・汚物回収の頻度向上
避難所課題	トイレ設備 (ハード)	メンテナンス 「仮設トイレを使っていたが、掃除が大変なため今は使っていない」(4/27) 「バリアフリートイレが故障」(4/26)	・トイレのメンテナンス
		設 置 「トイレは外にあるため高齢者にはつらい」(4/29) 「室内トイレは教員が使うために昼間は使えず外のトイレ(仮設)を利用」(4/27)	・居住者・インフラ状況に合ったトイレ利用(高齢者のポータブルトイレ利用、常設・仮設トイレの使い分け 等)
	利用・清掃 ルール (ソフト)	トイレ清掃頻度を決めている避難所は、宮城県内で4箇所(n=40)。 「屋内トイレは新聞紙を用いて使用」(4/6)	・トイレ清掃・使用ルールの策定

障害者ほか ～避難所内でのケアに生じつつある限界

- 障害者や子どもをもったご家族は、避難所を出てテント/車生活を強いられるケースがあった。4月以降は避難所内でケアされる事例もあったが、最近ではケアに限界がきて問題視される事が増えつつある

課題	コメント
<div data-bbox="92 454 768 1120">  <pre> graph LR A[避難所からの退去] --- B[避難所内でのケア] B --- C[ケアの持続] B --- D[ケアの限界] </pre> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 従来指摘の事項が今回も継続 「障害者の母がおり、テント生活をしていたが雨漏りのため車での生活に戻った」 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 最初1,2週間はケアが持続(「つなプロ避難所アセスメント第4週(4月18日～4月24日)に関する分析速報」より) <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 4月6日:「1Fにケアが必要と思われる方を集めており、一定の配慮が見られる」→4月30日:「体が不自由で寝たまま排泄をしてしまい、周辺から苦情を受けている」 3月31日:「知的障害者については周りでフォローしている」→4月30日:「知的障害を持たれている方は、心を許している人からの支援でないと拒む。ストレスが溜まっており、飲んで夜中に帰ってきて、まわりから大鬱蹙をかったことがあった」

(参考)基本データ ～引き続き仮設住宅段階前の小康状態

- 避難所あたりの総数はやや増加

		回答 避難所数*	該当人数 小計*	一避難所あ たり人数 (4/30調査)	【参考】一避 難所あたり人 数(4/23調査)	【参考】一避 難所あたり人 数(4/16調査)	【参考】一避 難所あたり人 数(4/9調査)	【参考】一避 難所あたり人 数(4/2調査)
基本数	避難者総数	138	15563	112.8	96.5	99.4	102.7	168.4
	過去一週間の入居者	15	35	2.3	1.5	45.7	41.4	102.7
	避難所外就寝者数	17	1300	76.5	27.2	53.5	36.3	84.9
	退去者数	23	1804	78.4	6.6	58.9	152.8	365.3
	自宅に戻った人数	12	891	74.3	40.5	29.3	27.9	128.1
	被災地外への転居数	2	0	n/a	0	4.1	14.4	8.6
	病院・福祉避難所への移動人数	7	27	3.9	0.2	0.3	0.8	2.6
年齢別	新生児 0歳児	47	14	0.3	0.3	0.3	0.2	0.6
	幼児 1～未就学	49	91	1.9	1.6	1.3	1.4	2.6
	子供 小学生	56	336	6.0	3.9	5.2	3.8	7.4
	12～18歳	37	236	6.4	1.6	3.4	3.0	5.4
	高齢者 65歳以上	42	1469	35.0	24.8	41.6	30.6	56.6
配慮者	妊婦	48	7	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1
	要介護者	33	29	0.9	0.3	2.1	2.5	2.2
	アレルギー患者	20	5	0.3	0.2	0.2	0.2	0.1
	その他要配慮数	16	5	0.3	0.6	0.3	0.5	0.1
	外国人	35	17	0.5	0.0	0.2	0.1	0.7
	対応必要な信仰	11	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
障害	障害者総数	41	40	1.0	0.1	1.2	1.0	2.5
	肢体不自由	29	10	0.3	0.1	0.6	1.0	1.7
	聴覚障害	27	7	0.3	0	0.1	0.1	1.1
	視覚障害	27	3	0.1	0.1	0.2	0.1	0.2
	知的精神障害	30	19	0.6	0.2	0.4	0.6	1.4
	自閉症・発達障害	22	2	0.1	0	0.1	0.1	0.3

・避難所により把握できたデータは異なる。数字は把握できた避難所数と、その避難所における該当小計、この二つの数字から、一避難所あたりの該当数を試算
資料: つなプロアセスメント調査(4月18日～24日)